

表 3 - 1 国立大学歯学部における入学定員と研修医予定定数

国立大学名	平成14年度入学定員	平成18年度臨床研修医予定定数
北海道大学大学院歯学研究科	43	40～50
東北大学大学院歯学研究科	45	50
東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科	55	65
新潟大学医歯学研究科	40	不明
大阪大学大学院歯学研究科	65 (5)	未定
岡山大学歯学部	55	検討中
広島大学歯学部	55	60
徳島大学歯学部	60 (5)	60
九州大学大学院歯学研究院	55	60
長崎大学歯学部	55	60～80
鹿児島大学歯学部	60	60
九州歯科大学	95	不明

(名)

表 3 - 2 私立歯科大学・歯学部における入学定員と研修医予定定数

私立大学名	平成14年度入学定員	平成18年度臨床研修医予定定数
北海道医療大学歯学部	96	80
岩手医科大学歯学部	80	64
奥羽大学歯学部	96	未定
明海大学歯学部	120	45前後
東京歯科大学	128	130
昭和大学歯学部	96	95
日本大学歯学部	128	130
日本大学松戸歯学部	128	128
日本歯科大学歯学部	128	128程度
日本歯科大学新潟歯学部	96	100
神奈川歯科大学	120	100
鶴見大学歯学部	128	100
松本歯科大学	113	90
朝日大学歯学部	128	115
愛知学院大学歯学部	128	100
大阪歯科大学	128	120
福岡歯科大学	96	80

(名)

2. 臨床研修カリキュラムワークショップ開催

平成 12 年 11 月 23 日の公開シンポジウムに引き続き、平成 13 年 4 月 21 日（土）、22 日（日）の 2 日間に渡って、臨床研修カリキュラム立案のためのワークショップを日本歯科大学歯学部会議室を借用し開催した。

研究班のメンバーはもちろんのこと、各施設からの参加者を含めて 28 名で実施した。参加者リストを表 1 に、日程表を表 2、研修機関設定と、それぞれのユニットを表 3、4 に示す。

ここで討議された内容でのプロダクトは 2. 到達目標の見直しおよび標準プログラムの作成 (B) に反映した。

表 1

厚生科学研究事業ワークショップ・参加者リスト

兒野喜穂	帝京大学医学部歯科口腔外科助教授
三浦廣行	岩手医科大学歯学部歯科矯正講座教授
野首孝祠	大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴学第2教授
柴田考典	山形大学医学部歯科口腔外科助教授
寺中敏夫	神奈川歯科大学歯科保存学講座教授
植木輝一	日本大学医学部歯科口腔外科助教授
高水正明	鶴見大学歯学部歯科保存学第1講座助教授
子田晃一	新潟大学歯科保存学第1講座助教授
葛西一貴	日本大学松戸歯学部矯正学講座教授
町野守	明海大学歯学部口腔診断学講座助教授
西村眞	西村歯科医院院長
岡野篤夫	日本歯科大学新潟歯学部総合診療科助教授
新谷明喜	日本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座教授
山田了	東京歯科大学歯科保存学第2講座教授
鴨志田義功	鴨志田歯科医院院長
石井拓男	東京歯科大学社会歯科学研究室教授
吉澤信夫	山形大学医学部歯科口腔外科教授
波多野尚樹	波多野歯科医院院長
河合峰雄	神戸市立中央市民病院歯科口腔外科医長
岩久正明	新潟大学歯学部歯科保存学第1講座教授
久光久	昭和大学歯学部第2歯科保存学講座教授
三代冬彦	日本歯科大学歯学部附属病院講師
井上宏	大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座
俣木志朗	東京医科歯科大学大学院教授
櫻井薫	東京歯科大学歯科補綴学第1講座教授
石川富士郎	日本歯科大学新潟短期大学学長
住友雅人	日本歯科大学歯学部教授
中原泉	日本歯科大学学長

(敬称略)

表2 ワークショップ日程表

	9:30	11:00	12:00	12:30	13:00	15:00	15:15	15:45	18:00	19:00	20:20	21:00
4/21 (土) ・ 第一日			〔集合〕 昼食	開講式	解説	作業 [I-1]	コーヒーブレイク	中間報告	作業 [I-2]	夕食	発表	修正
4/22 (日) ・ 第二日		作業 [II-1]	コーヒーブレイク	作業 [II-2]	昼食	発表	閉講式					
	9:30	10:45	11:00	12:30	13:30	14:40	15:00					

表3 研修機関設定

場 所：歯科大学・歯学部附属病院

研修医数：120名

研修期間：1年間

研修方式：単独研修方式

(1) - 2、4

(2) - 1、3

複合研修方式

(1) - 3、5

(2) - 2、4、5

単独 or 複合研修方式

(1) - 1

(1) 歯科臨床研修基本習熟コース

G I O 独立診療を実施できるようになるために基本的な歯科医療についての知識、態度、技能を身につける。

ユニット

1. 患者対応
2. 総合治療計画
3. 予防・治療基本技術①
4. 高頻度治療（処置）
5. 医療管理・地域医療①

(2) 歯科臨床研修基本習得コース

G I O 生涯にわたる研修を行うためにより広範囲の歯科医療について知識と技能を習得し態度を養う。

ユニット

1. 全身管理
2. 医療危機管理
3. 治療評価管理
4. 予防・治療基本技術②
5. 医療管理・地域医療②

表4 担当ユニット

	A	B	C	D	E
(1) 習熟コース	1	2	3	4	5
(2) 習得コース	1	3	4	2	5

数字は前ページのユニットに対応

3. 臨床研修指定基準・評価ワークショップ開催

平成13年9月1日（土）、2日（日）の2日間に渡り、臨床研修指定事項・評価についてのワークショップを新潟県湯沢市のホテルスポーリア湯沢の会議室において開催した。今回のワークショップでは KJ 法にて現行の指定基準などについて表1に示す作業を行った。

参加者リストを表2、日程表を表3に示す。ここで討議された内容でのプロダクトは3. 臨床研修修了の評価基準・仕組みに関する研究（C）、4. 臨床研修施設の指定基準および第三者評価について（D）に反映した。

表 1

作業 1

評価する上での問題点を抽出し、具体的な評価項目、評価方法などについて立案する。

〔出席，ケース，評価ノート，OSCE，再履修，第三者評価機構など〕

作業 2

現在の指定基準（物的条件，人的条件）の問題点を抽出し、望ましい指定基準を提案する。

〔施設，設備，指導医，担当医の条件，衛生士数，第三者実地調査機構など〕

表 2

WSメンバー表

中原泉	日本歯科大学学長
住友雅人	日本歯科大学歯学部教授
真柳秀昭	東北大学大学院歯学研究科教授
櫻井薫	東京歯科大学歯科補綴学第1講座教授
吉澤信夫	山形大学医学部歯科口腔外科教授
岩久正明	新潟大学大学院医歯学総合研究科教授
俣木志朗	東京医科歯科大学大学院教授
久光久	昭和大学歯学部第2歯科保存学講座教授
石川富士郎	日本歯科大学新潟短期大学学長
鴨志田義功	鴨志田歯科医院院長
波多野尚樹	波多野歯科医院院長
新谷明喜	日本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座教授
河合峰雄	神戸市立中央市民病院歯科口腔外科医長
石井拓男	東京歯科大学社会歯科学研究室教授
三浦廣行	岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座教授
荒木孝二	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科助教授

(敬称略)

表3 研究班WS日程表

9月1日(土)

12:00 } 昼食
 13:00 } 開講式・説明
 13:30 }
 14:00 } 作業1-1
 15:00 }
 15:30 } コーヒーブレイク
 16:00 }
 17:00 } 作業1-2
 17:00 } 発表10分
 17:00 } 討議10分
 18:00 } 修正
 19:00 } 夕食
 20:00 }
 21:30 } mini bar
 23:00 }

9月2日(日)

7:00 } 朝食
 8:30 } 打ち合わせ
 8:35 }
 9:00 } 作業2(含むコーヒー
 9:00 } ブレイク)
 10:00 }
 11:00 } 発表10分
 11:00 } 討議10分
 12:00 } 修正
 13:00 } 閉講式・昼食
 14:00 }

4. 厚生科学研究事業公開シンポジウム（意見交換会）開催

平成 13 年 12 月 1 日に日本歯科大学歯学部九段ホールにおいて 115 名の参加者のもとで意見交換会を開催した。

ここで提示した指定基準・評価案に対し、参加者の意見を収集した。その内容は、分担研究報告書 2. 到達目標の見直しおよび標準プログラムの作成 (B)、3. 臨床研修修了の評価基準・仕組みに関する研究 (C)、4. 臨床研修施設の指定基準および第三者評価について (D) に反映した。

当日のプログラムを表 1、参加者リストを表 2 に示す。

表1 厚生科学研究事業公開シンポジウム

—医療技術評価総合・歯科医師臨床研修—

「歯科医師臨床研修必修化に向けての研修修了評価、指定基準の見直しについて」

日時：平成13年12月1日（土）10時～16時30分

会場：日本歯科大学歯学部九段ホール

東京都千代田区富士見1-9-20 電話03-3261-8311

JR、営団地下鉄有楽町線、東西線、南北線、飯田橋下車、
神楽坂下口出口、徒歩約7分

9:00	受付開始		
10:00	シンポジウムの目的	住友雅人	(日本歯科大学歯学部)
10:20	歯科医師臨床研修の現状	石井拓男	(東京歯科大学)
10:50	本研究の流れ(研究進行)	岩久正明	(新潟大学大学院医歯学研究科)
11:10	到達目標案提示	井上 宏	(大阪歯科大学)
11:30	修了評価案提示	鴨志田義功	(神奈川県開業)
12:00~13:00	昼食・休憩		
13:00	討論(質疑応答)		
	司会	吉澤信夫	(山形大学医学部歯科口腔外科)
14:15	休憩		
14:30	指定基準の見直し案提示	櫻井 薫	(東京歯科大学)
15:00	討論(質疑応答)		
	司会	真柳秀昭	(東北大学大学院歯学研究科)
16:15	総括	中原 泉	((財)歯科医療研修振興財団・主任研究者)
16:30	散会		

表2 参加者リスト

歯科大学

(敬称略)

北海道医療大学	川上智史	永易裕樹
岩手医科大学	三浦廣行	
山形大学	吉澤信夫	
明海大学	町野守	
東京歯科大学(千葉)	八ツ橋孝彰	太田幹夫
	杉山哲也	山田敏勝
	山田了	
東京歯科大学(市川)	福島大平	木津康博
東京歯科大学(水道橋病院)	大多和山美	
日本大学松戸歯学部	葛西一貴	金田隆
	牧村正文	和田守康
	長濱文雄	黒木俊一
	小林平道	川島正
	小見山道彦	
日本歯科大学	三代冬節	菊谷武夫
	原安節廣	北村和全
	光沢茂隆	瓦田
日本大学	黒田隆則	後藤實
	佐藤吉則	升谷滋行
	吉沼直人	高橋浩
昭和大学	角田左武郎	渡辺竜登美
神奈川歯科大学	山村雅章	田村利之
	鈴木敏行	寺中敏夫
	小山堀実起	角田晃隆
鶴見大学	中辺秀朗	今井崇建
日本歯科大学新潟歯学部	岡野篤夫	吉五嵐勝
	山口晃	関本恒夫
	外山三智雄	
松本歯科大学	山岡稔裕	
愛知学院大学	伊藤裕茂	橋本和佳
大阪歯科大学	星野忠則	紺小井川文隆
	北野忠省	小川文也
岡山大学	皆木吾次	
広島大学	小川哲	

九州歯科大学
福岡歯科大学

福 田 仁 一
本 田 武 司

中 島 与志行

64名

協力研究者

石 川 富士郎

1名

医科大学

福島県立医科大学
東京医科大学
北里大学東病院
京都府立医科大学
佐賀医科大学

白 淵 公 敏
千 葉 博 茂
東 江 良 昭
金 村 成 智
後 藤 昌 昭

5名

一般病院

旭中央病院
亀田総合病院
埼玉県比企福祉保健総合センター
三井記念病院
東京都立大塚病院
東京都老人医療センター
長野赤十字病院
藤枝市立総合病院
豊橋市民病院
大垣市民病院
天理よろづ相談所病院
紀南総合病院
神戸市立中央市民病院
武田総合病院
香川県中央病院
防衛庁
防衛庁

鶴 見 徹
亀 田 恭 子
遠 藤 浩 正
坂 本 泰 宏
田 中 潤 一
山 口 雅 庸
楨 林 敏 夫
宮城島 俊 雄
山 本 忠
長 縄 吉 幸
木 下 文 夫
大 亦 哲 司
河 合 峰 雄
太 田 克 人
三 次 正 春
鈴 木 通 彦
海老沢 政 人

自衛隊中央病院
海上自衛隊

佐藤英明
小澤幹夫

19名

歯科診療所

こばやし歯科医院
金子歯科診療所
やばしら歯科駅ビル診療所
飯田橋歯科クリニック
たけの子歯科
のおとう歯科医院
上り口歯科医院
河上歯科医院
伊東歯科医院
入江歯科

小林秀樹
金子弘
日野輝男
竹内均
高橋淳
信藤孝博
宮崎憲一
河上雄之介
伊東隆利
入江修充

10名

報道関係

東京医歯薬出版
医歯薬出版

原壽子
水島健二郎
牧野和彦
伊藤祐次
米川征英
碓井恒夫
齊藤敦司
岩佐千里
水谷惟紗久
小畑佳弘
安齊清幸
奥村勝
柳啓一郎

鈴木トキ子
大城惟克
大辻寿

歯界報知新聞社
歯科ペンクラブ
歯科時報新社
日本歯科新聞社
ヒョーロン・パブリッシャーズ
デンタルダイヤモンド社
医学情報社
日刊医療新聞社

16名

115名

厚生科学研究研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）

分担研究報告書

<到達目標の見直しおよび標準プログラムの作成>

分担研究者	井上宏	大阪歯科大学教授
	俣木志朗	東京医科歯科大学大学院教授
研究協力者	石川富士郎	日本歯科大学新潟短期大学学長
	石井拓男	東京歯科大学教授

平成12年度・平成13年度本研究における、具体的な「到達目標の見直しおよび標準プログラム」の作成に当たって、プログラム作成の基本的な考え方、ねらい、そしてプログラムの一般目標、行動目標を掲げた。

[I] 標準プログラム作成の基本的な考え方

- (1) 卒後臨床研修では、卒前臨床実習の到達目標（各大学での卒前臨床実習の到達度にはかなりの差があるが）より高位な目標を設定することを基本とする。したがって、歯科大学長会議で提示された歯科医学教授要項－臨床実習編－を基準として、それよりも一歩前進した高度なプログラムを作成する。
- (2) 日常臨床でよく遭遇する疾患や機能障害に、自らが確実に対応できる基本的な臨床能力を身につけることをプログラムの基本とする。
- (3) プログラムが具体的で実践的であるために、自らが確実に実践する「習熟コース」と頻度高く臨床経験し、研修後に早期に習熟が望まれる「習得コース」に分ける。
- (4) 社会構造の変化、国民の歯科医療ニーズに応えるため、ミニマムリクワイメントの到達目標と各研修施設の特徴を生かしたオプションな到達目標を構築することが望まれることにより、専門的な技術能力をもつ歯科医師の育成には、研修プログラムの中にオプションとしての専門分野が選択できるように工夫をする。
- (5) 医療者として生涯研修は必須である。本臨床研修制度の1年目はその生涯研修のスタートとして位置づけ、自己学習の態度・習慣を身につけることを目標とする。
- (6) 歯科医師卒後の臨床研修が「主たる研修施設」および「従たる研修施設」いずれにおいても、研修を進めていく上で共通の、一般的な到達目標と標準プログラムを作成する。したがって、それぞれの研修施設の特徴をいかして、そのプログラム内容を取捨選択できるように臨床研修プログラム作成時の参考となるよう努める。

[II] 研修の一般的目標

1年ないし2年間の卒直後臨床研修において、患者中心の全人的医療を理解し、全ての歯科医師に求められる基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけ、生涯研修の第一歩とする。

[III] 研修のねらい 1. 歯科医師として好ましい態度・習慣を身につけ、患者および家族とのよりよい人間関係を確立する。

2. 全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
3. 歯科疾患と障害の予防および治療における基本的技術を身につける。
4. 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置が確実に実施できる。
5. 歯科診療時の全体的偶発事故に適切に対応できる。
6. 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
7. 専門的知識や高度先進的技術に目を向け、生涯研修の意欲への動機づけができる。
8. 歯科医師の社会的役割を認識し、実践する。

[IV] 標準プログラム

1. 歯科臨床研修 「基本習熟コース」

一般目標

独立診療が実施できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身につける。

(1) 患者対応

一般目標

適切な歯科診療を実施するために、望ましい患者－歯科医師関係を確立するのに必要な知識と態度を身につけ、実践する。

- ① 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。
- ② 患者の自己決定を尊重する。(インフォームドコンセントの構築)
- ③ 患者のプライバシーを守る。
- ④ 患者の心身におけるQOLに配慮する。

(2) 医療面接

一般目標

患者との信頼関係を確立し、診断・治療に必要な十分な医療情報を得るために、医療面接に必要な能力を身につける。

行動目標

- ① コミュニケーション・スキルを実践する。
- ② 病歴聴取(主訴、現病歴、既往歴、家族歴)を的確に記録する。
- ③ 患者の心理・社会的背景に配慮する。
- ④ 患者教育と治療への動機づけを行う。(3) 総合診療計画

一般目標

効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身につける。

行動目標

- ① 適切で十分な医療情報を収集する。
- ② 基本診査法を実践する。
- ③ 基本診査の所見を判断する。
- ④ 基本検査法を実践する。
- ⑤ 基本検査の所見を判断する。
- ⑥ 得られた情報から診断する。
- ⑦ 適切な治療法を提示する。
- ⑧ 一口腔単位の治療計画を作成する。

[IV] 標準プログラム

1. 歯科臨床研修 「基本習熟コース」

一般目標

独立診療が実施できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身につける。

(1) 患者対応

一般目標

適切な歯科診療を実施するために、望ましい患者－歯科医師関係を確立するのに必要な知識と態度を身につけ、実践する。

行動目標

- ① 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。
- ② 患者の自己決定を尊重する。(インフォームドコンセントの構築)
- ③ 患者のプライバシーを守る。
- ④ 患者の心身におけるQOLに配慮する。

(2) 医療面接

一般目標

患者との信頼関係を確立し、診断・治療に必要な十分な医療情報を得るために、医療面接に必要な能力を身につける。

行動目標

- ① コミュニケーション・スキルを実践する。
- ② 病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴）を的確に記録する。
- ③ 患者の心理・社会的背景に配慮する。
- ④ 患者教育と治療への動機づけを行う。（3） 総合診療計画

一般目標

効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身につける。

行動目標

- ① 適切で十分な医療情報を収集する。
- ② 基本診査法を実践する。
- ③ 基本診査の所見を判断する。
- ④ 基本検査法を実践する。
- ⑤ 基本検査の所見を判断する。
- ⑥ 得られた情報から診断する。
- ⑦ 適切な治療法を提示する。
- ⑧ 一口腔単位の治療計画を作成する。

（4） 予防・治療技術 [1]

一般目標

歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身につける。

行動目標

- ① 基本的予防法と手技を実施する。
- ② 基本的治療法と手技を実施する。
- ③ 医療記録を適切に作成し、管理する。

（5） 応急処置・高頻度治療

一般目標

一般的な歯科疾患に自信を持って対処するために、応急処置および高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身につける。

応急処置

行動目標

- ① 疼痛に対する基本的な治療ができる。
- ② 歯、口腔および顎顔面の外傷に対する基本的な治療ができる。
- ③ 修復物および補綴装置等の脱離と破損および不適合に対する適正な処置ができる。

高頻度治療

行動目標

- ① 齶蝕に対する基本的治療ができる。
- ② 歯髄疾患の基本的治療ができる。
- ③ 歯周疾患の基本的治療ができる。
- ④ 歯の基本的な抜歯処置ができる。
- ⑤ 咬合・咀嚼障害の基本的治療ができる。（6） 医療管理・地域医療 [1]

一般目標

歯科医師の社会的役割に果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身につける。